

# 「新国立懸念を封印」

二〇二〇年東京五輪の主会場として計画される新国立競技場（東京都新宿区）のデザインコンペの審査経過が、本紙が情報公開請求で入手した資料で判明した。審査では景観や多額の建設コストなど、ザハ・ハテイドさんのデザインをめくり、後にクローズアップされる懸念が既に指摘されていた。だが、議論は深まらず、審査の最終盤には「懸念が先行するのは避けたい」などと、マイナス評価の公表を控えるよう求めるやりとりが行われた。

「この中ですと、圧倒的に一番か十七番なのでしょから、一番か十七番かを決めましよう」  
二作品で議論がもつれた終盤、審査委員長の安藤忠雄さんが切り出した。二番

のアラステル・レイ・リチャードソンさん、十七番のハテイドさんを残し、妹島和世さんの作品を落とすと、直後、最終判断を委ねられた安藤さんは「日本の技

## JSC議事録

術力のチャレンジという精神から十七番がいいと思いません」と即答した。だが、審査の過程でハテイドさんの作品に否定的な意見も寄せられていた。「特異な形態なので、費

否が巻き起こるだろう。神宮外苑全体の景観として、異物が挿入された感は否めない」「スケール感や街との連続の仕方など、周辺環境との関係性を検討する必要がある」  
二次審査で各委員が提出した審査資料では、複数の委員が景観への懸念を表明した。実際の審査でも日本スポーツ振興センター（JSC）の河野一郎理事長が「隣に（聖徳記念）絵画館があり、周囲に、周辺についても考える必要がある」と問題提起。別の委員から「絵画館の前からスタジアムがどう見えるのか歩いたが、（最終候補の）どの案を採用しても景観上は邪魔」との意見も出た。

ハテイドさんの作品で特に問題視されたのは、新競技場から延びるスロープが公募条件の建設範囲を大きくはみ出し、北側の首都高速やJRの線路をまたいでいたことだ。  
首都高やJRと調整が必要になり、委員は「想定する工期では無理」などと指摘。最終的にスロープは短くされたが、この時は「（スロープは）重要なコンセプトの一つ」「これを外すとこの提案はコンセプトが変わってしまう」と疑問の声が上がった。二本のアーチで全体を支える構造も「かなりコストはかかる懸念はある」と指摘された。

一方、「ダイナミズムは捨てがたい」「オリンピックに必要なインパクトという観点では断然」と、迫力あるデザインを絶賛する意見も根強かった。  
最終的に安藤さんがハテイドさんを選んだが、その後、河野理事長は「いろいろ懸念が先に出てきてしまい、本来的にわれわれが意図しない方向に行ってしまうのは避けたい」と発言。選考結果の公表に「工夫が必要」と述べた。  
これに安藤さんも「発表の仕方としては強いインパクトを持ってこれを推すんだと言わないと、（略）この委員会でも少しも揺れた取られるのは本意ではありません」と応じた。他の委員から異論はなかった。

千葉県内で千葉県内でも千葉市一町でつく

# 「異物 入った感じ」 「工期間に合わぬ」



2020年東京五輪・パラリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場のイメージ。日本スポーツ振興センター提供

## 審査内容の公表不十分

新国立競技場の建て替え問題が昨秋に指摘されて以降、本紙はデザインコンペの経緯について情報開示を求めたが、JSCは「公表すると今後の意思決定の中立性が損なわれる」と応じなかった。計画に反対する多くの建築家や有識者に対しても同様の対応を取り続けた。それが一転、新競技場の基本設計案が固まった直後の今年五月三十日、審査過程の概要をまとめた約百ページの報告書をホームページ（HP）で公表した。報告書ではザハ・ハテイドさん

## 選考の詳細触れず

とめたもので、あえて何かを省いたことはない」と述べていた。既にコンペから一年半も経過。計画が大詰めを迎えた段階での報告書の公表は遅く、何より内容が不十分だ。情報公開請求で判明した最終決定の経緯は、ハテイドさんのデザインや審査のあり方は是非を考える上で基になる資料といえる。新競技場建設に民意を反映させるために、当初から明らかにされるべきだった。  
新競技場建設は「国家プロジェクト」をうたっているが、少なくともJSCがそれに見合う説明責任を果たしているとは言い難い。（森本智之）

## 千葉

千葉県内で千葉市一町でつくられた。浦安署によ